

<p>教育方針</p> <p>豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。</p>	<p>重点目標</p>	<p>新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 地域とともに、未来を探究する ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活の基本の徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切にされた個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。
---	-------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	有事におけるPTA行事の開催方法を研究し、PTA活動を一層活性化させる。防災訓練の見直しを図る。	B	高校祭では、新たにPTA研修会として、野村高校PR動画の視聴と、「めっちゃ×2 ちくさんっ!」と題しての畜産科生徒による畜産科施設説明会を実施した。参加者は少なかったが、好評であった。防災訓練は感染予防を図りながら実施することができた。	コロナ禍でPTA活動が制限されるなか、PTA会員の親睦を深め、学校行事を盛り上げることができ活動を開始していき。PTAスポーツ大会の復活や研修会の在り方について理事の方々と検討していきたい。防災訓練は感染予防を図りながら実施する。
学習 指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	C	調査時における、各学年の家庭学習時間の平均について、1年生2.4時間、2年生2.9時間、3年生2.9時間となっている。1学期から全体的にわずかな増加が見られるが、畜産科が全体的に少ない。	各学年の主任、正副担任、教科担当が協力して、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。家庭学習記録を活用して、目標を立てたり、学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなど、具体的な対策をとる。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。 A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 45%以上 E 45%未満	E	各学年の皆勤率は、1年生36.2%、2年生42.1%、3年生49.1%となっており、全学年とも目標を達成できていない。各教科とも小テストを定期的実施しており、課題も適切に出し、生徒の基礎学力向上に取り組めた。	どの学年も、2学期に欠席者が増加する傾向があり、面談をするなどより細やかな指導を行う。全学年の皆勤率が例年に比べて低かった。日頃から、生徒一人一人の動向に注意し、教科指導、生活指導ともに、個々にふさわしい指導方法を工夫する。
生徒 指導	基本的な生活習慣の確立	心のもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100%交通安全の推進により、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。安心、安全な学校生活環境を構築する。	B	挨拶についてはコロナの影響もあり若干、元気がなくなっていると感じることがある。身だしなみは合格率100%には届かないが95%を超えており学校生活についても落ち着いて過ごせていると感じる。大きな事故も発生しなかった。	現在の状況を継続し、安心安全に学校生活を過ごすことができる環境を整えたい。また身だしなみ規定については、時代に即したものに見直しを図るように取り組む。
特別 活動	自主的活動の充実	ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	C	コロナの影響もあり学校行事については縮小を余儀なくされている。	代替え案を工夫し、生徒が自主的に活動できる場面をより多くつくってきたい。
進路 指導	進路指導の充実	進路目標達成の満足度100%を目指す。 難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	B	進路決定および進路指導に対する満足度が100%、自己努力満足度が97%であった。	本校の進路指導には満足している結果が出ているが、進路先や進路実現までの自分の努力についてやや不満を感じている生徒が1名いたので、原因を究明して必要な改善策を検討する。
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現させる。	A	学校斡旋就職希望者は全員が第1希望の企業への就職が内定した。公務員試験も西予消防、自衛隊で合格をすることができた。縁故、自営を含め就職希望者全員が内定している。	夏休みの就職希望者補習で指導は充分に行えているが、9月上旬の受験前が体育祭と重なり、面接指導が少し遅れがちである。計画的に進めていきたい。
保健 管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、健康、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。各自がコロナ等の感染症対策を自覚をもって行い、感染の予防に努める。	B	コロナ禍の渦中であり、日々の健康観察、学校での生活様式のあり方等について、呼びかけや環境の改善等で予防に努めた。学校での怪我については致し方ない部分もあるが、保健だより等で予防を喚起した。悩みの調査を年間を通じて行い、悩みを抱えている生徒の把握に努め、その都度担任や学年で対応した。	昨年度に比べ、日本スポーツ振興センター申請件数は減少しているため、次年度も安全点検や啓発活動を継続していきたい。悩みの調査やRAMPS(精神不調アセスメント測定ツール)を通じて、悩みを抱えていても発信できない生徒の把握に努め、担任だけでなく教員全体で対応するように努めたい。
業務 改善	職務の効率化及び快適で働きがいのある職場環境の整備	会議の精選、職員提出書や職員・保護者連絡等のペーパーレス化を含め、職務全般に効率化を図る。魅力的な学校づくりを通して、多忙感の解消及び職務充実感を高める。	C	コロナ禍の対応と併せて、会議の精選、校務系のメッセージ機能・掲示板機能やマチコミメールの活用によるペーパーレス化等については、一定の進捗を図れた。新型コロナウイルス感染症の対応等に伴う計画変更、家庭・関係機関との連携調整も含め業務の精選を進めることができなかった。	事務処理の効率化、会議の精選、書類のペーパーレス化等を一層進める。振替休暇の確実な取得、年次有給休暇の取得しやすい雰囲気作り、働きがいのある職場環境の一層の充実を図るなど、教職員の働き方改革の視点での業務改善を進める。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
読指書導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 5.0冊以上 B 4.5冊以上 C 4.0冊以上 D 3.0冊以上 E 3.0冊未満	A	3/6日時点での平均貸出冊数は6.1冊である。全ての学年で小説を借りる生徒が多い。	「朝の読書」の時間における読書活動が、クラスによってまちまちである。ビブリア・ライティングなどの取り組みや、バーコード利用による貸出開始の利便性向上もあり、若干の意識の向上がみられる。継続して、啓発などを行っていききたい。電子図書サービスを利用した、読書意識の高揚と積極的な利用を促していく。
情教報育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	B	直近4か月(8/29～1/29)のHP更新回数平均は5.5回である。	基本的には、各割当て(当番)の順守を徹底する。各学校行事や部活動、生徒会活動などについては、HPの割り当て当番になっていなくても、生徒の様子などを随時の発信していく。
	教育支援クラウドサービス	Microsoft365教職員理解度100%	B	アンケートの結果、基本的な操作ができる割合は93%であった。基本的な操作ができないと回答した人は2名であった。	さらに理解度を深められるような研修の機会も検討したい。アンケートなどはフォームズを基本とし、実際に使う場面を増やすようにする。
教相育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	関係職員との連携もスムーズで、SLAIによる呼び出し相談も充実させることができた。	関係職員との連携だけでなく、職員全体で情報を共有し、より多くの職員で生徒を見守っていく。
特別教支援	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、SLAや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。校内委員会、ケース会議などで、情報の共有、連携した支援体制の構築を図り、該当生徒を集団で支援する体制を作る。	B	支援員の協力のもと、生徒の課題や困り感への対応をその都度行ってきたが、生徒自身の課題を改善するには至っていない。	支援を要する生徒への対応方法をもとに、より多くの生徒への対応を充実させていく。それによって、課題をもつ生徒一人一人が、自ら課題を改善していくようにさせたい。
同和・人権教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学习等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	B	生徒の委員会活動や教職員対象の研修会を、ほぼ計画通りに実施している。校外での研修や交流学习への参加等、さらなる活性化に向けて工夫の余地がある。	生徒人権委員や特定の職員に限らず、より多くの生徒・教職員が交流学习等に参加できる機会を充実させる。「地域との連携」、「リーダーの育成」をキーワードに考えている。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率 A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	16名中3人で18.8%であった。	就農予定者は3名で、昨年度と同数である。近年、農業大学校等に進学後、就農する生徒がほとんどだったが、今年度は高校卒業後すぐに就農予定の生徒が1名いる。今後も高校在学中の先進農家見学や営農講演会等を通して、農業への意識付けを行い、地域農業を支える人材を一人でも多く育成していきたい。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各種発表・競技会において優秀賞1つ以上、全国大会での優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	A	家畜審査競技県大会 乳牛の部 最優秀賞・優秀賞 第1回各種発表県大会 意見発表(分野I類) 優秀賞 農業クラブ全国大会 農業鑑定競技(区分畜産) 優秀賞 第2回各種発表県大会 意見発表(分野I類及びII類) 優秀賞	各種発表及び競技会において今年度も継続して成果を残せている。生徒の地道な努力や携わる教員の熱心な指導など、現在の指導体制を今後も継続していきたい。また、今年度は「なんよBBQソース甲子園」に出場し、優秀賞を受賞することができた。今後も農業関連のコンクール・コンテスト等にも積極的に取り組んでいきたい。
学校魅力推進	全国募集の充実および公営塾の円滑な運営	地域みらい留学などの活動を通して効果的な全国募集を行い、本校への入学志願者数を増やす。 公営塾の運営、地域連携型の探究活動を円滑に行い、魅力のある学校を目指す。	B	本年度は、前年の活動を踏まえて、畜産科の発表、公営塾・地域みらい留学生の発表、生徒による野村高校の魅力の発表など工夫のある内容にすることができた。バスツアーも4名の県外生が参加、個別に2名の生徒が本校を訪問してくれた。ただし、実際に受験する人数が少なくなったのは残念である。公営塾は、昨年と同様に地域連携型の探究活動の充実に尽力してくれた。また、3年生塾生の進路実現にも、多大なる恩恵をもたらしてくれたことは特筆に値する。	全国募集では、他学校との差別化をはかるアピールが、まだまだ不足しているように感じるため、この点を変えていかなければならない。女子下宿先の充実や本校独自の行事、さらなる地域連携型探究活動の発展を目指して活動していく必要がある。公営塾講師と本校教員の情報共有を密にして、来年度もさらに塾生の進路実現が達成できるような連携のあり方を模索していく必要がある。
寮務	基本的な生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。さらに、社会人に向けての準備期間として、自立した生活態度を身に付けさせる。	B	舎監の先生方のご協力のおかげで、点呼、巡視、点検を行い、寮内の事故件数は0である。さらに、朝食の準備時間を新たに設け、寮生全体での年末大掃除を企画する等、新たな取り組みも行っている。	毎日の清掃に加え、定期的で大掃除の機会を設けて環境美化に努める。今後も快適な生活空間の実現と、生徒たちに自立した生活態度を身に付けさせる取り組みを継続して行う。
施設管理	教育環境の整備充実	学習環境の整備の向上を図るとともに、施設・物品の早期修繕に取り組む。	A	放送設備取替、農芸教棟外壁修繕、コピー機更新、寄宿舎修繕等、教育環境の整備を実施した。	魅力ある学校作りによる生徒募集に沿って、教育環境の充実を図る。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。